



加藤 元の



と暮らして
みませんか

32

猫は犬よりも本能的にきれい好きです。猫はどこにでも排便や排尿をするということは、体や心の病気以外まずありません。猫は犬よりもはるかにトイレのしつけがしやすいのです。

まず、猫のトイレを準備しましょう。トイレは、浅めのものを選び、ベッドのそばに置きます。トイレの数は、猫の数プラス1です。トイレの砂は、親元で使っていたものと同じものか、同じものに新しく用意した砂を混ぜたものを使います。また、トイレも親元で使っていたものにすれば、それだけ早く慣れることができます。

猫のトイレ

失敗してもしかってはダメ

このようなことを守れば、子猫が家族の一員になったその日から、排尿・排便もうまくできるようになるものです。普通はこれ以上手にトイレを覚えてしまいません。遅いものでも、二三日続ければ、必ずうまくいきます。

猫も犬と同様、目が覚めたとき、食事が終わったとき、ひと遊びしたときなどに、生理的に排便や排尿をしたくなるものです。このチャンス逃さずにトイレに連れて行きます。このときは、できるだけさりげなく、やさしく扱ってやらなければなりません。

上手にトイレができれば、必ずほめてあげましょう。もらしたり失敗してもたいたいたり、しかつたりしてはいけません。そのようなことをしても、子猫はなぜしかられたのかわからないので、しつけの効果はあがらないのです。

しつけで最も大切なことは「赤ちゃんや犬や猫には、ことの善悪は理解できない」ということを知っておくことです。ですから、しかるよりもほめることで、効果があがることになるのです。

もし、しつけが崩れた場合、病気がどうかを病院で調べてもらい、病気でない場合は、原因を明らかにして、解決法を教えるてもらいましょう。

(ダクタリ動物病院広尾病院院長、日本ヒューマン・アニマル・ボンド・ソサエティ会長)

《産経新聞2004年11月14日掲載》